

第489号 6月号 2025.6.20

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL: 058-277-1107

岐阜県商店街振興組合連合会 第57回通常総会 任期満了に伴う役員改選 日比野豊氏を理事長に再任

令和7年5月26日（月）午後1時30分より、OKBふれあい会館14階「展望レセプションルーム」（岐阜市藪田南5-14-53）に於いて、第57回通常総会を開催いたしました。



▲通常総会の様子

日比野理事長を議長に、令和6年度事業報告では、岐阜県唯一の百貨店「岐阜高島屋」が7月末で撤退し、全国で4例目の百貨店がない県となり、高島屋があった岐阜柳ヶ瀬商店街においては、県内若しくは近隣県から魅力的な店舗を誘致し、地域の居住者を増やしたいというビジョンを掲げ、新たなスタートを切ったこと。高山本町三丁目商店街では、オーバーツーリズムに向き合い、商店街の環境や景観を維持するための「商業まちづくり協定」を策定し、運用を始めたこと等を報告いたしました。

令和7年度事業計画では、人材育成事業とし

て、地域経済分析システム「RESAS」を活用したデータ分析セミナーの開催や、SNSの活用方法を学ぶ勉強会を2回開催する予定であること等を報告いたしました。

今年度は、任期満了に伴う役員改選があり、理事11名と監事3名が選任され、下記の通り、理事長と副理事長が決定いたしました。

【理事長】

日比野 豊氏 美濃俵町商店街・理事長

【副理事長】

大塚 康芳氏 恵那市商店街・理事長

末松 誠栄氏 各務原市商店街・会長

長瀬 哲氏 高山市商店街・理事長

北川 均氏 岐阜市商店街・理事長

【常任理事】

和田 武雄氏 土岐市商店街・会長

小木曾 利之氏 多治見市商店街・会長



▲御来賓あいさつ

有賀 和秋氏 瑞浪市商店街・会長
松本 正平氏 大垣市商店街・理事長
原 利浩氏 中津川市商店街・会長
水野 琢朗氏 岐阜柳ヶ瀬商店街・理事長

【監事】

田中 雅裕氏 顧問税理士
藤田 聖人氏 神田町四丁目商店街・理事長
広瀬 文雄氏 大垣駅前商店街・理事長

御来賓では、中部経済産業局 産業部長 柳原和男様、岐阜県 商工労働部次長 田口博史様、当連合会顧問弁護士 川島和男様の御三方より、ご祝辞を頂戴いたしました。

続いて、商店街功労者に贈られる「岐阜県知事

賞」の表彰式が行われ、高山市商店街振興組合連合会 専務理事 大萱真紀人様が受賞されました。おめでとうございます。



▲田口商工労働部次長より賞状の授与

“懐かしさ”に“新しさ”を添えておもてなし 春の中山道六斎市まつり

◆主催：中山道中津川宿六斎市実行委員会

5月4日（日）に、中津川市の市街地周辺で「春の中山道六斎市まつり」が開催されました。現地取材した上で、中津川商工会議所の副会頭・勝野さん、専務理事・成瀬さんにお話を伺いました。



▲中津川のゆるキャラ「にゃかつがわ君」

1. 15年続く“商店街イベント”の底力とは？

中津川市の中山道中津川宿「六斎市」は、今年でなんと172回目を迎える長寿イベントです。毎月第1日曜日に開催され、すでに15年以上もの歴史があります。特に5月と11

月には、昔ながらの商店街のお祭りと合体した「中山道六斎市まつり」として、規模を拡大してにぎやかに行われています。

このイベントの成り立ちは、「三」と「六」のつく日に市が立ったことからきており、かつての六斎市を復活させたもの。中心となっているのは、新町・本町といった歴史ある商店街の皆さんです。今では、地元の商工会議所や観光協会、そして地域の方々と一丸となって運営しています。

「毎月やるのは本当に大変。でも、『第1日曜はここで何かやってる』という風景が、もう街の定番になっているんです」と勝野さんは話されました。今では他の地域からの問い合わせがあるほど、その取り組みは注目されています。

2. ペット同伴OK！街を歩く“チャレンジ”が生んだ新常識

取材をして一番驚かされたことが、“ペット同伴OK”という取り組みです。なんと、大型犬を連れて商店街を歩くこともできるようになっていました。どの犬も吠えることも走り回ること

ありません。さながら中津川発のドッグショーでした。これには、地域の理解とチャレンジ精神がありました。

きっかけは、地元で新しくできたペットショップの提案でした。「街中を犬と一緒に歩けたら面白いんじゃないか？」とネットで発信したところ、思った以上の反響が。初回には心配されたクレームもなく、今ではすっかり受け入れられた風景に。愛犬家の来場者たちは、ワンちゃんと一緒に散歩がてらお買い物を楽しんでいます。



▲愛犬と一緒に楽しめるまつり

3. 観光客だけでなく、地域住民が楽しめる場づくりを

この祭りのもうひとつの魅力は、「観光だけに頼らない」という姿勢です。たとえば地元の高校生が出店し、自分たちが作った野菜や加工品を販売する姿も見られます。「文化祭以外で自分たちの作品を発表できる場所があるのはありがたい」と話す先生や生徒たち。地域の未来を担う若者たちが、実践の場として活用しています。

また、住民の方々にとっても、「気軽に出店できる場所」「久しぶりに知り合いと顔を合わせる機会」として親しまれており、まさに“地域の縁側”のような存在になっているのです。

4. “伝統 × 新しさ”のせめぎ合い～マンネリ化を打ち破る試み～

毎月続けるからこそ、課題もあります。「代わり映えがしない」「マンネリになりがち」といった声に応えるため、運営側は毎回工夫を凝らし

ています。今回は、参加型の風流おどりやフラダンスといったパフォーマンスも導入され、若い世代や観光客の注目を集めて人だかりができていました。

さらに、ビジネスホテルの駐車場を活用した特設ステージや、大人気のパン祭り、地元名物「五平餅」のブースなど、季節ごとにテーマ性を持たせるなどの取り組みも。運営スタッフたちは、イベント終了後すぐに次の会議を始め、知恵を出し合って新しいアイディアを練っているそうです。



▲馬籠衆と叩く和太鼓

5. イベント成功の鍵は“商店街の巻き込み力”にあり

この六斎市の最大の特徴は、「商店街が主役」ということです。市や商工会議所がサポートする一方で、イベントを“やりたい”という商店街側の意志がしっかりあります。新しくオープンした店が、「うちも参加したい」と声を上げることもあり、自然と仲間が広がっていきます。

「どこから補助金が降りてくるからやるんじゃないくて、自分たちがやりたいからやる」—その姿勢が、イベントの継続と盛り上がりの源です。

観光と地域文化の両立は簡単ではありませんが、だからこそ商店街の力が必要なのです。中津川では「人が住み、働き、買い物をし、楽しめる街づくり」を目指し、若者の挑戦も積極的に受け入れています。

この中山道六斎市まつりは、懐かしさと新しさが混ざり合う、まさに“進化する伝統”。ペット

連れで楽しめる、家族で立ち寄れる、学生の初チャレンジが見られる—そんな、まちの未来を感じさせるイベントなのです。



▲常に大盛況だったフードエリア

■ 編集後記～取材を終えて～

中山道六斎市まつりは、地域の魅力を引き出し続ける“街おこし”の成功例です。15年以上にわたり、商店街主導で毎月開催されているこの祭りは、地元の人々が「第1日曜はここ」と自然に集まる、まちの風物詩になっています。注目すべきは、地域住民や商工会議所、観光協会が一体となって支える運営体制。さらに、ペットと一緒に楽しめる取り組みや、毎回工夫された企画など、訪れる人を飽きさせない工夫がいっぱいです。「自分たちがやりたいからやる」という商店街の前向きな姿勢こそが、イベントの継続と地域の活性化につながっているのです。他の地域でもぜひ参考にさせていただきたい、愛されるイベントの好事例です。

“昭和を感じて、未来を描く 恵那まちなか市

恵那まちなか市 春の陣”

◆主催：恵那まちなか市実行委員会

5月24日(土)に、恵那駅前周辺エリアで「恵那まちなか市」が開催されました。恵那市商店街振興組合の大塚理事長に会場を案内していただきお話を伺ってきました。



▲朴葉寿司まつり～メインブース～

1. 昭和100年をテーマにした年間企画

今年の商店街イベントは「昭和100年」という大きなテーマを掲げ、一年を通じて春夏秋冬4回にわたり開催されます。イベントの中心にはこの「昭和100年」がしっかりと据えられて

おり、戦後のにぎわいや活気を再現しながら、大井町エリアの商店街がさらににぎわい、さらに活気あふれる場所となるように——そんな願いが込められています。出店者の皆さんもこのテーマをしっかりと受け止め、それぞれのブースや催しに「昭和」を感じさせる工夫を凝らしています。全員が同じテーマに準じて出店しており、まるで一つの大きな舞台を一緒に作りあげるかのように、足並みがしっかりとそろっています。「このまちを盛り上げたい」「誇れるまちにしたい」という思いを共有し、出店者も運営者も、そして来場者も一体となって、同じ方向を向いて歩んでいる——そんな温かさと一体感が、このイベントの大きな魅力となっています。

2. 地元中学生の100人規模ボランティア

今回のイベントには、地元の中学生約100名が、ボランティアとして参加しました。以前は来場者として楽しんでいた生徒たちが、今では“迎える側”として地域イベントを支える存在へと成長しています。彼らの自主性やフレッシュな行動力は、商店街のにぎわいを生み出す原動

力となっており、イベントの運営に欠かせない存在です。

また、経験豊富な大人たちが、若者の活動を見守りながら支える体制が整っているのも、この地域ならではの特徴です。商店街の役員や地元の大人たちは、自分の本業をこなしながら、若者たちの力を信じ、要所要所でサポートを行っています。

さらに、「自分が楽しんだ体験を、今度は下の世代に届けたい」という思いが生徒たちの中に根つき、世代を超えてつながる文化が育まれています。このような循環が、地域と若者をつなぎ、ふるさとへの誇りや愛着を育てる大切な基盤となっているのです。



▲大活躍のボランティアスタッフの中学生

3. イベントを通じて地域の“食”の魅力を再発

年間を通じて「昭和100年」というテーマのもと開催されている商店街イベントでは、毎回、季節に合わせた“食”の魅力が丁寧に発信されています。中でも今回、春のメインとして登場したのが、地元の名物「朴葉寿司(ほおばずし)」です。会場には、地域の店舗や団体が腕によりをかけた多彩な朴葉寿司がずらりと並びました。酢飯の上に鮭やしいたけ、錦糸卵などをのせ、香り高い朴の葉で包んだ寿司は見た目にも華やか。味や具材、彩りに工夫を凝らした種類も豊富で、訪れた方々はどれにしようかと笑顔で選んでいました。その人気ぶりは目を見張るほどで、なんとイベント開始から2時間ほどで、ほぼすべての朴葉寿司が完売。地域の食文化を代表する看板商品として、まさに主役級の存在感を放ってい

ました。

地元の味を楽しみに訪れる人が後を絶たない、そんな“おいしい記憶”を通じて、まちの魅力がしっかりと伝わっています。



▲大塚理事長とカキ氷ブース担当の西中生メンバー

4. 若者が帰ってきたくなる“誇れる地元”の形成

イベントのもう一つの大きな目的は、「地元を誇れるまち」に育てること。高校卒業後に進学や就職で地元を離れる若者たちが、「あのまちは楽しかったな」「また戻りたいな」と思えるような、そんなふるさとづくりが目指されています。そのためにも、子どものころからイベントに触れ、成長とともにボランティアとして参加し、やがて大人になったときにはまちを支える一員になってもらう…、そんな循環が生まれつつあるようです。

5. 「青い山脈駅」構想と地域ブランディング戦略 ～大塚理事長が抱く大いなる野望(ユメ)～

大塚理事長は、恵那の未来に向けて、心おどるような夢を描いていらっしゃいます。その名も「青い山脈駅」構想。名もなき新駅に、映画『青い山脈』の舞台にちなんだ名前を付け、訪れる人々の心に物語を宿す—それが大塚理事長の仕掛ける地域ブランディングです。構想は駅名の話にとどまりません。「世界一速いリニアから、世界一遅いSLへ」という夢の乗り継ぎルートをつくり、恵那市、中津川市一帯での宿泊・食・観光を通じて、地域に人の流れとお金を呼び込もうという壮大な戦略が練られています。「なぜ青

い山脈駅なの？」と聞かれた時に始まる物語。それは、この町の魅力そのもの。大塚理事長は、駅をただの交通の場から、“記憶に残る物語の入り口”へと変えようとしているのです。こうした大塚理事長の尽きることのないPower Of Dreamが、恵那市商店街の活力の源になっています。



▲取材を通して味わった戦利品

■ 編集後記～取材を終えて～

「昭和100年」をテーマに展開される商店街イベントは、まち全体が一つの舞台となり、にぎわいと懐かしさを呼び起こす感動の空間を生み出しています。出店者が一体となってテーマに沿った工夫を凝らす姿は、まさに地域活性化のモデルです。さらに心を打つのは、約100人もの中学生がボランティアとして参加し、笑顔で来場者を迎える姿。かつて“楽しむ側”だった子どもたちが、今度は“支える側”として輝くその姿は、大人たちにも誇らしさと感動をもたらします。この光景こそ、世代を超えて地域をつなぎ、「また帰ってきたい」と思えるふるさとを形づくる原動力になっています。

【取材・記事 中小企業診断士 都築宏一】

◆IT導入補助金でIT導入・DXによる生産性向上を支援

- 業務の効率化やDXの推進、セキュリティ対策に向けたITツール等の導入費用を支援！
- インボイス対応に活用可能！安価なITツールの導入にも活用可能で、小規模事業者は最大4／5補助！
- 補助額は最大450万円／者、補助率は1／2～4／5！

通常枠

- 生産性の向上に資するITツール（ソフトウェア、サービス）の導入費用を支援します。
- クラウド利用料を最大2年分補助し、保守運用等の導入関連費用も支援します。

複数社連携IT導入枠

- 10者以上の中小企業・小規模事業者等が連携した、インボイス制度への対応やキャッシュレス決済を導入する取組等を支援します。導入や活用に向けた事務費・専門家経費も補助対象です。

インボイス枠 インボイス対応類型

- 令和5年10月1日に開始されたインボイス制度への対応に特化した支援枠で、会計・受

発注・決済ソフトに加え、PC・タブレット・レジ・券売機等のハードウェア導入費用も支援します。

- 小規模事業者は最大4／5補助し、補助下限は無く、安価なITツール導入も支援します。

インボイス枠 電子取引類型

- 取引関係における発注者（大企業を含む）が費用を負担してインボイス対応済の受発注ソフトを導入し、受注者である中小企業・小規模事業者等が無償で利用できるケースを支援します。

セキュリティ対策推進枠

- 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が公表する「サイバーセキュリティお助け隊サービスリスト」に掲載されているセキュリティサービスの利用料を支援します。

お問い合わせ先

TEL：0570-666-376

受付時間：9時30分～17時30分

（土曜・日曜・祝日・および年末年始を除く）

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。